

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	コロナ禍において、発達障がいや非行等課題のある子ども達への関りを密にし、学習支援・生活支援をする
2 事業実施期間	2022年7月～2023年2月

<p>3 事業実施内容 *具体的に記入してください。</p>	<p>(実施日、場所、対象者、参加人数、内容、周知方法など)</p> <p>①実施場所 ア、中学生の部 那覇市古波蔵3丁目3丁目20-1千代正マンション1F (そてつの会内) イ、小学生の部 那覇市古波蔵2丁目18-2古波蔵むつみ会館</p> <p>②対象者 【対象者・数などの目安】 ・発達障がいを抱えた児童生徒、非行少年・少女、不登校の生徒が対象である。 ○小学生の部 (1年~6年) 毎週水曜日 16:00~18:00 6~10名  ○中学生(高校生)の部 (1年~3年) 毎週火・木の18:00~20:00 10~15名</p> <p>③内容 ・発達障がいを抱えた児童生徒や非行傾向の生徒、また、不登校で学力の低い子のため、興味関心をひく教材を準備し新しい機器や教材を活用し、しっかり塾に通わせ生活リズムを整えさせる。小学生は読み書き、掛け算九九の習得をさせる。「遊びの中に学びがある」との考えを基本に、遊ぶことを学習の一つとして捉えて進めてきた。 ・中学生は読解力の育成を中心に学習支援を行いつつ、進路指導も本人の適性を見つけながら行った。例えば、認知能力の向上に役立つ発達障害児のためのコグトレを取り入れた。また、教材や教具の工夫をし、顕微鏡、話す地球儀、天体望遠鏡、パソコンでのプログラミング指導等。高校生の学び直しや、居場所の提供もした。那覇工業高校の定時に通う生徒が少数の計算が授業で必要だから教えてと来たので、小学校の問題集を練習させ習得させた。 <u>児童生徒の生きる力の育成のための新しい教育方法の2年次の取り組みを引き続き行った。</u> <u>(イエナプラン教育)・異年齢集団で行う教育方法</u> ・行事を特に大切に、自分の役割を意識することによって所属意識や、自己肯定感を養うようにする。</p>
------------------------------------	--

	<p><b>【行事】</b></p> <p>誕生日会はほぼ毎月実施、10月学級開き（お楽しみ会）、12月クリスマスパーティー等を実施した。昨年度から実施した<u>遠足を今年度も計画</u></p> <p>合格祝い、卒業祝いは3月に予定している。</p>
<p>4 事業実施における数値目標 (中間報告書で示した数値)</p>	<p>中間報告では50%の目標達成度であったが、現在では、70%ぐらいの目標達成であると考え。</p> <p>一年を通して新型コロナに感染ないように学習すること。楽しく学び、遊び、生きる力を身に付ける。</p>
<p>5 上記4の数値目標の達成度</p>	<p>(例：90パーセント達成（理由：〇〇）)</p> <p>70%の達成度と考える。理由は、当初、非行系の生徒が多数入塾すると考えていたが、それに該当する生徒は女子2名が塾に入った。途中から、母親の考えもあり、他の塾に行った。もう一人は、途中で不登校になり、引きこもるようになった。発達障がいの生徒達は7名に増えたが、なかなか細かい指導ができなかった。講師は7名いるが、発達障がいの専門ではないので、十分に指導することができなかつたように感じる。それでも、講師の4名の学生さんと、一般の3名の講師は塾の終了後、ミーティングをして指導方法の研究や生徒達の情報交換をしっかりとってくれて、指導力も向上していったと感じる。</p>

<p>6 事業の成果</p>	<p>(対象や地域、社会にどう貢献したかなど)</p> <p>発達障がい生徒達は、普通の塾に通うのは難しいが、本塾のように様々な課題を持った生徒が集まる場所は、割と安心して来られる場所となっている。地域でも塾のことを聞いて保護者が訪ねて来たり、学校の先生に勧められて来たりして通うようになった生徒が5名いる。いずれも発達障がいの生徒達であるが、学校の先生方から、依頼され通うようになったのは、今年度は特に学校と連携がうまく取れたからではないかと思う。</p> <p>発達障がいの児童生徒は、なかなか地域で落ち着ける場所もなく、学校から帰ると遊ぶ友達も限られていて、家でゲームやYouTubeを見ることが多くなる傾向にある。</p> <p>本塾に通うようになって、友達と話す機会が増えゲーム依存になることが減ってきたと感じる。また、誕生日会やクリスマス会、学期の終わりのお楽しみ会等、学校でできないことが塾ではでき、皆で楽しくできる良さがある。軽食の提供もしているが、家庭に課題があり夕食の準備がされてない生徒達にとっては、塾で食べる食事は週2回ではあるが楽しみにしているところもある。</p> <p>また、卒業生も時々、訪ねてくることも多く、ある卒業生はアルバイトを3つかけ持ちをしているとあって、塾に沢山のお菓子の差し入れを持って来たり、また、ある生徒は高校生活の悩みを相談に来たりする。</p> <p>中学では非行に走った女子生徒達が、少し大人しくなり2人で近況報告をしに来ることも多々あった。</p> <p>居場所があり、そこに自分たちの話を聞いてくれる大人がいることで人生を大きく誤ることがないのかもしれないと感じる。</p>
----------------	---

	<p>① 良かった点、工夫したこと</p> <p>地域や学校から塾に通わせたいと頼まれることが多くなり、この塾が少し認知されたのではないかと思う。</p> <p>発達障がいの生徒達の居場所、学習の場所として定着してきた。</p> <p>工夫したことは、小学生の部はイエナ教育プランをベースに勉強をさせたことがよかった。無理に勉強しなさいと言わなくても小学生が勉強することが増えた。遊びも大いに取り入れたことが奏功した。また、児童生徒が飽きないように勉強の仕方を色々試してみたこと。例えば、バトミントンをさせたり、卓球をさせたり、小学生は鬼ごっこを取り入れたりした。パソコンもプログラミングを指導したり、発達障がいの生徒達に有効といわれるコグトレの練習問題を取り入れたりした。教具も顕微鏡や天体望遠鏡、話す地球儀等を活用している。</p> <p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <p>発達障がいの生徒達が増えて、指導に時間がかかったり、うまくいかなかったりすることもあった。また、女子生徒は男子生徒が多いとやりにくそうで、やめた生徒や来なくなった生徒もいた。場所が狭いので、多くて10名程度の受け入れしかできないので、もっと広い場所があればと思う。</p>
<p>8 今後の展開 (継続、内容変更、終了など)</p>	<p>小学生の部は次年度、継続か検討中。講師が早い時間に間に合わない場合があり(小学生の部は午後4時から)、一人では対応が難しくなっている。もう一人の講師も家族の介護のため毎回は来られない。児童の人数は多いときは14名の児童が来ることもあり大変である。少ないときでも6名(発達障がいがある児童は4名)は来る。発達障がいの児童は手がかかるので来年度、継続できるかわからない。</p>
<p>9 その他の意見、感想など</p>	<p>体力的な問題もあり、いつまで塾を運営できるか考えたりする。後継者を育てたいが、専門性も必要なので難しい。</p>

